

DIGITAL MIXING CONSOLE

M7CL

VERSION 3

リコールセーフガイド

Enjoy mixing more with Scene Recall and Focus!



はじめに

M7CL Version 3の新機能の一つとして、リコールセーフ機能の対象パラメーターが追加されてシーンリコール操作の自由度と操作性が飛躍的に向上しました。

シーンリコール機能はコンソール設定を素早く切り替えられるので便利ですが、状況によっては切り替えたい設定とそうでない設定が混在する場合があります。このような場合は、リコールセーフ機能やフォーカス機能を使いこなすことで、シーンメモリーを更に臨機応変に活用できるようになります。

このガイドでは、M7CL Version 3のリコールセーフおよびフォーカスのアプリケーション例を紹介してから、高度なリコールセーフ/フォーカスパラメーターをブロックダイアグラム上で図解することで視覚的に整理して、リコールセーフ/フォーカス機能を有効活用するためのヒントを提供します。

目次

シーンメモリーとは 3
リコールセーフとフォーカス 4
アプリケーション例 6
リコールセーフの基本操作 9
リコールセーフパラメーター 12
チャンネルセーフパラメーター 12
グローバルセーフパラメーター 17
リコールセーフのTips 19
フォーカスの基本操作 20
フォーカスパラメーター 21
付録: リコールセーフ/フォーカス ブロックダイアグラム 付録1～6

シーンメモリーとは

M7CLでは、ミックスパラメーターや入出力ポートのパッチングなどの設定をシーンとしてメモリーにストア(保存)/リコール(読み込み)できます。シーンをリコールすることで、コンソールの設定を場面に応じて素早く切り替えることができます。

シーンに含まれる設定

- ヘッドアンプ（レベル、+48V、フェーズ）
- チャンネルネーム / アイコン
- パッチ（インプット、アウトプット、インサート、ダイレクトアウト、モニター、カスケード、ラック）
- インサート（オン / オフ、インサートポイント）
- ダイレクトアウト（オン / オフ、ダイレクトアウトポイント、レベル）
- EQ（HPFを含むすべてのパラメーター）
- ATT（デジタルアッテネーター）
- DYNAMICS1（すべてのパラメーター）
- DYNAMICS2（すべてのパラメーター）
- MIX/MATRIXセンド（バスセットアップ*、オン / オフ、レベル、プリ / ポスト）
- パン / バランス（ポジション、STEREO / MONO / LCR）
- DCA（グループ割り当て、レベル、オン / オフ）
- ミュートグループ（グループ割り当て）
- フェーダー
- チャンネルリンク*
- ラック（すべてのパラメーター）
- INPUT TO TALKBACKのヘッドアンプ*
- フォーカス*
- クロスフェード設定*（オン、タイム）

* これらの設定は、リコールセーフの対象に含まれません。

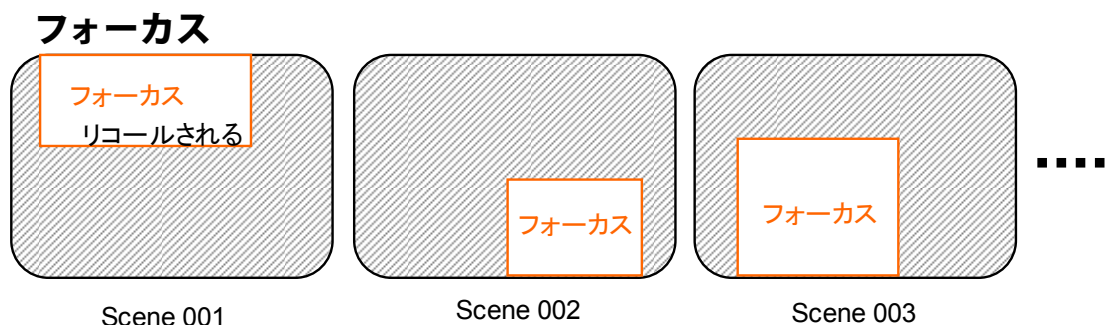
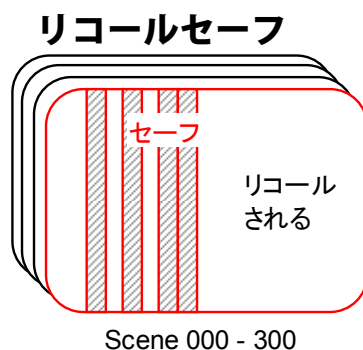
シーンに含まれない設定は別のメモリー領域に保存されていて(パネル上の物理ノブは除く)、シーンをリコールしても影響を受けません。シーンに含まれない設定について詳しくは、「M7CLクイックスタートガイド」Part 2およびPart3をご参照ください。

リコールセーフとフォーカス

ショーでのミキシングには柔軟さが求められます。一連のシーンリコールだけでは予期せぬ演出の変更や観客による音響特性の変化などに対応できない場合があります。このガイドでは、柔軟かつ動的にショーを演出するために、リコールセーフおよびフォーカス機能によるシーンメモリーの活用方法を説明します。

あるシーンをストアすると、リコールセーフやフォーカスの設定に関係なく、すべてのチャンネルのすべてのパラメーターが記憶されます。ただしシーンをリコールするときは、リコールセーフやフォーカスが設定してあると、特定のパラメーターのリコールが除外され、それらのパラメーターはリコールで変更されません。

リコールセーフはすべてのシーンに共通の設定であるのに対して、フォーカスは特定のシーンをリコールするときのみに有効な設定です。リコールセーフはリコール”しない”パラメーターを設定する(マスキングするイメージです)のに対して、フォーカスはリコール”する”パラメーターを設定します。また、リコールセーフはチャンネルごとやパラメーターごとに設定できるのに対して、フォーカスはより大きな括りで設定します。

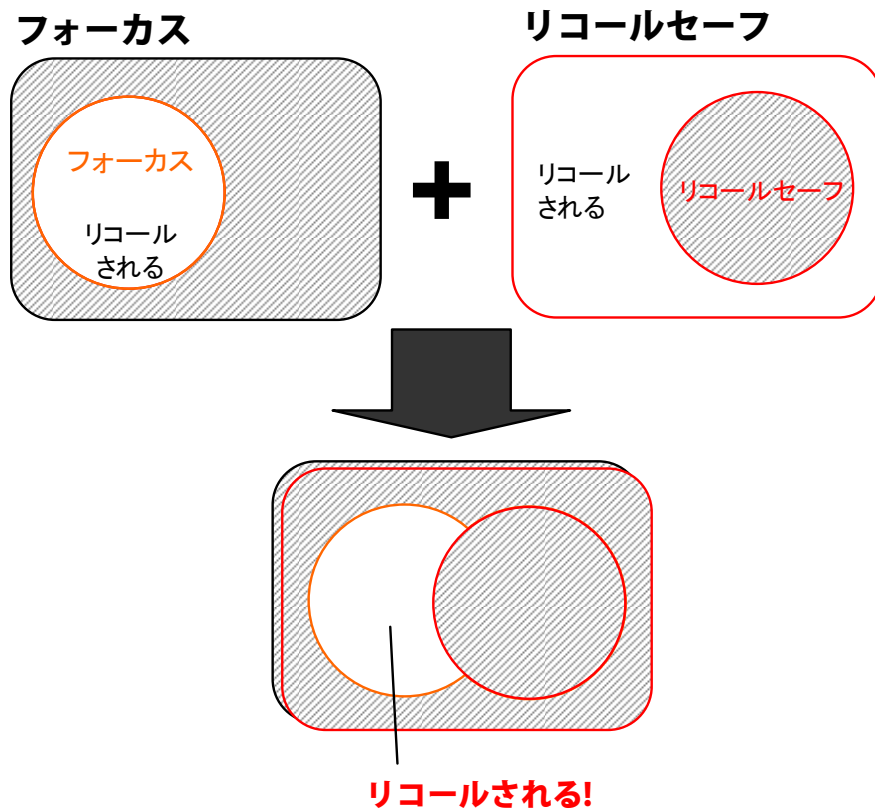


	シーン毎に設定	チャンネル毎に設定	選択したパラメーターを
リコールセーフ	×	○	リコールしない
フォーカス	○	×	リコールする

リコールセーフとフォーカス

リコールセーフとフォーカスの併用

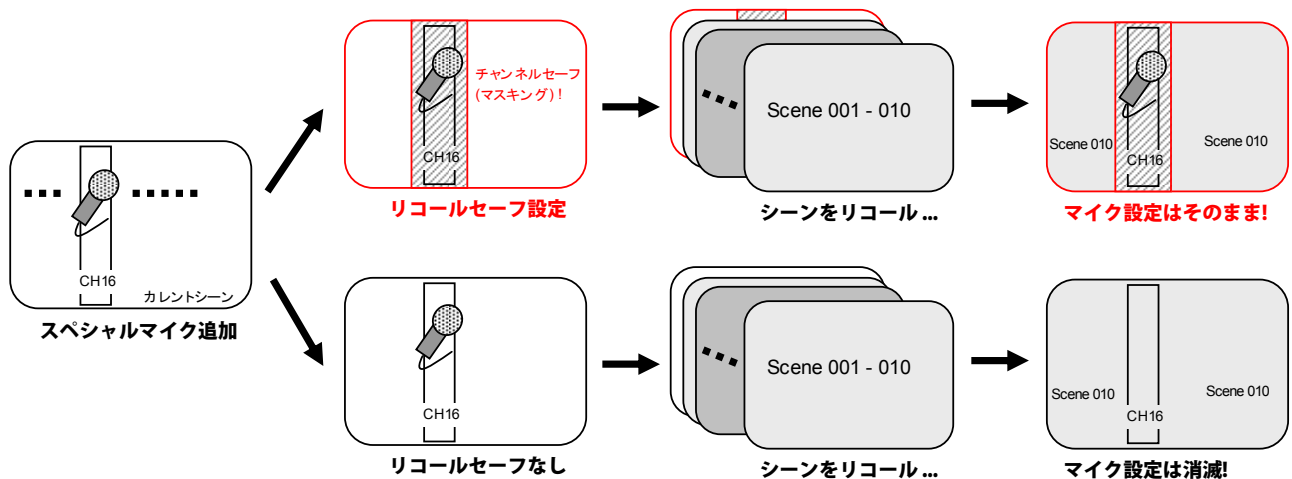
リコールセーフとフォーカスは併用でき、どちらか一方でもリコール操作から除外されている(セーフされている/フォーカスされていない)チャンネル/パラメーターは、リコールされません。言い換えると、フォーカスされていて、かつリコールセーフされていないチャンネル/パラメーターのみがリコールされます。



アプリケーション例

シーン作成後のマイクチャンネル追加/無効に対応するには？ (リコールセーフ)

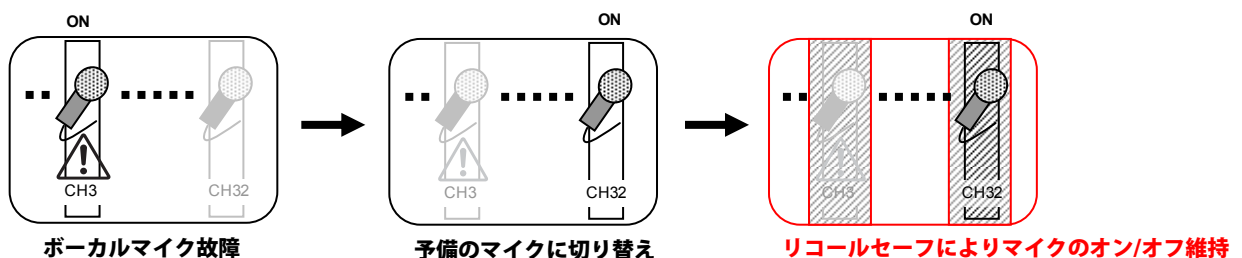
多くの既存のシーンから成るショーで、シーン作成後にスペシャルマイク(プレゼンターや安全アナウンス)が追加された場合、シーンをリコールするたびに、マイクを使用していない状態の設定がリコールされてしまいます。そこで、このマイクチャンネルのみALLでリコールセーフに設定すると、シーンリコールから除外され、このチャンネルのみリコールに関係なくマニュアルで操作できます。リハーサル用のマイクチャンネルを本番ではオフにしたい場合なども、同様に該当チャンネルをリコールセーフに設定します。



予備のマイクチャンネルに切り替えるには？ (リコールセーフ)

多くの重要なショーでは、リードボーカルなどの不可欠なマイクのトラブルに備えて、予備のマイクおよびチャンネルを準備しておくものです。これらの予備マイクのチャンネルは、通常すべてのシーンでオフに設定しておきます。ワイヤレスの混信やケーブル不良によりメインのマイクに問題が発生した場合は、問題のマイクチャンネルをオフにして、予備のチャンネルをオンにします。ただし、シーンをリコールすると、問題のチャンネルがオンに、動作中の予備チャンネルがオフに戻ってしまいます。

この問題は、両方のマイクチャンネルでリコールセーフを設定することにより回避できます。マイクチャンネルでシーンごとにEQなどの設定が異なる場合は、[ON]キーだけをリコールセーフに設定します。ただし、マイクを使わないときにオフに設定するシーンがある場合は、手作業で対応する必要があります。



アプリケーション例

1曲目のEQ調整を2曲目以降も保持するためには？ (リコールセーフ)

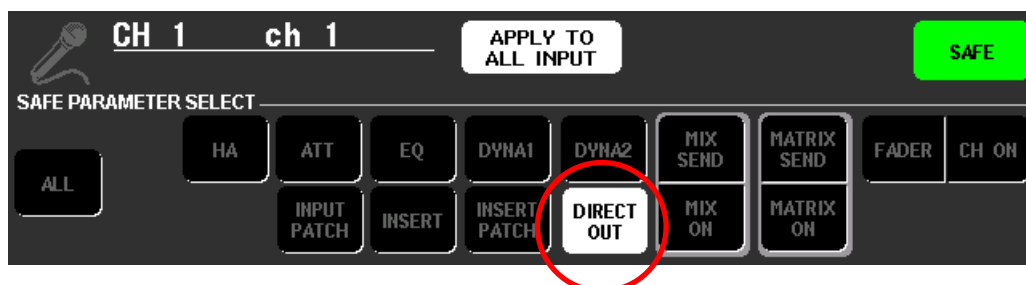
バンド演奏で曲ごとにシーンを切り替える場合、1曲目の演奏中にバスドラムなどのEQを調整することがあります。2曲目のシーンをリコールすると元のEQ設定がリコールされてしまい、同じEQ調整を繰り返すことになります。そこで、該当チャンネルのEQのみリコールセーフに設定することで、2曲目以降もEQ設定を保持できます。

また、リコールセーフではなく、既存のシーンデータを書き換えたい場合は、グローバルペースト機能で複数のシーンにまとめてEQ設定のみをペーストすることもできます。

マルチトラック録音用にダイレクトアウトを追加するには？ (リコールセーフ)

既存のシーンを使ってツアー中に、ある会場だけマルチトラックレコーディングすることがあります。レコーディング用に、インプットチャンネルごとにダイレクトアウトをパッチしてオンに設定できます。これらは、スロット出力へのパッチやダイレクトアウトのオン/オフなど多くの設定を含みます。ただし、ダイレクトアウトはシーン設定に含まれ、M7CL Version 3より前までは、シーンごとに設定し直す必要がありました。

M7CL Version 3では、SAFE PARAMETER SELECTメニューにダイレクトアウトが追加されたので、簡単に設定できるようになりました。DIRECT OUTを選択するだけで、ダイレクトアウトのパッチ、[ON]キー、センドポイント、センドレベルをセーフできます。



アプリケーション例

アナログ卓のようにリハーサルで素早く設定を保存するには？ (リコールセーフ)

アナログミキサーではマークアップシートにミックス設定を記入していましたが、デジタルミキサーではシーンメモリーにその設定をバンドごとや曲ごとに保存することができます。このとき、リコールセーフを利用すれば、リハーサルの流れを止めずに素早く設定を保存することができます。

1. 基本設定となるシーンを作成しておきます。少なくとも、リコールセーフの対象にならないチャンネルリンクとMIX/MATRIXバスセットアップは設定しておきます。
2. 基本設定のシーンにバンド名(または曲名や場面など)の名前を付けて、バンドごとのシーンとしてストア(保存)しておきます。M7CLはフェーダーレイヤーを切り替える必要がないので、チャンネル名は入力しなくてもフェーダーの上部に直接記入すればOKです。
3. リハーサルでは全チャンネル(RECALL SAFE MODEのすべての設定)をリコールセーフに設定します。
4. バンドごとに該当シーンをリコール(呼び出す)します。ミキシング設定が終わったらシーンにストアしておきます。バンドが変わるごとにリコール/ストアを繰り返します。
リコールセーフ設定により、リコール操作ではミックス設定が変更されません(例外については16ページ参照)。また、ストア操作はリコールセーフに関係なく実行できるので、アナログミキサーのように蓄積されたミックス設定が保存されます。
5. リハーサル終了後にストアされたシーンデータを整理し、必要な箇所を除いてリコールセーフをオフに戻すことで、本番でリハーサルのミキシング設定を確実にリコールできます。

アナログ卓のようにミュートシーンを使うには？ (リコールセーフ)

PM3500のようなアナログコンソールや劇場向けのコンソールには、ミュートシーンを設定できるものがありました。ミュートシーンは、グループごとではなくチャンネルごとにオン/オフを1回の操作で切り替えられる(ミュートセーフも不要)ので、ミュートグループよりも柔軟に活用できます。

1. RECALL SAFE MODEポップアップを開きます。
2. SAFE PARAMETER SELECTセクションで、APPLY TO ALLを選択して、CH ON以外のすべてのオプションをオンにします。
3. SET BY SELを選択して、すべてのチャンネルの[SEL]キーを押します。
4. シーンをリコールすると、[ON]キーの設定だけがリコールされます。ただし、チャンネルリンク、MIX/MATRIXバスセットアップ、TO STEREO/MONO、PAN/BAL、LCR、MUTE/DCA Assignは、リコールセーフの対象外(必ずリコールされる)またはALLでしかセーフできないため、[ON]キーの設定と一緒にこれらのパラメーターもリコールされることにご注意ください。

アプリケーション例

乗り込みエンジニアにオペレーションを引き渡すには？ (リコールセーフ)

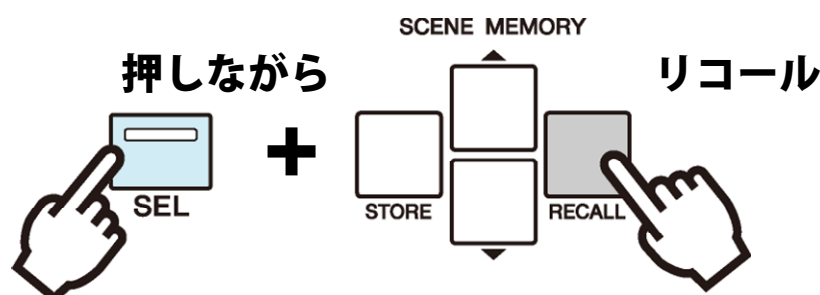
フェスティバルなどで乗り込みエンジニアにオペレーションを引き渡す場合も、出力系のリコールセーフが便利です。チューニング済みの出力系パラメーター(メイン出力のEQやGEQ)などの共通設定にはリコールセーフをかけておくことで、それ以外のパラメーターだけを初期設定に戻して引き渡すことができます。

複数のエンジニアでコンソールを共有する場合は、入力系パラメーターをリコールセーフに設定したままにしないようにご注意ください。前のエンジニアがEQなどを調整するためにリコールセーフを設定してそのままにした場合、後のエンジニアがシーンリコールしたときにこれらの設定がリコールされなくなります。

また、USBメモリーから設定データをロードすると、リコールセーフに関係なく、すべての設定が上書きされるのでご注意ください。

一時的に特定チャンネルにリコールセーフをかけるには？ (リコールセーフ)

演奏者がMCが続けているけど次の曲のシーンをリコールしないといけない場合などは、そのチャンネルの[SEL]キーを押しながらシーンをリコールすると、一時的にそのチャンネルにリコールセーフをかけてシーンをリコールできます(17ページ)。



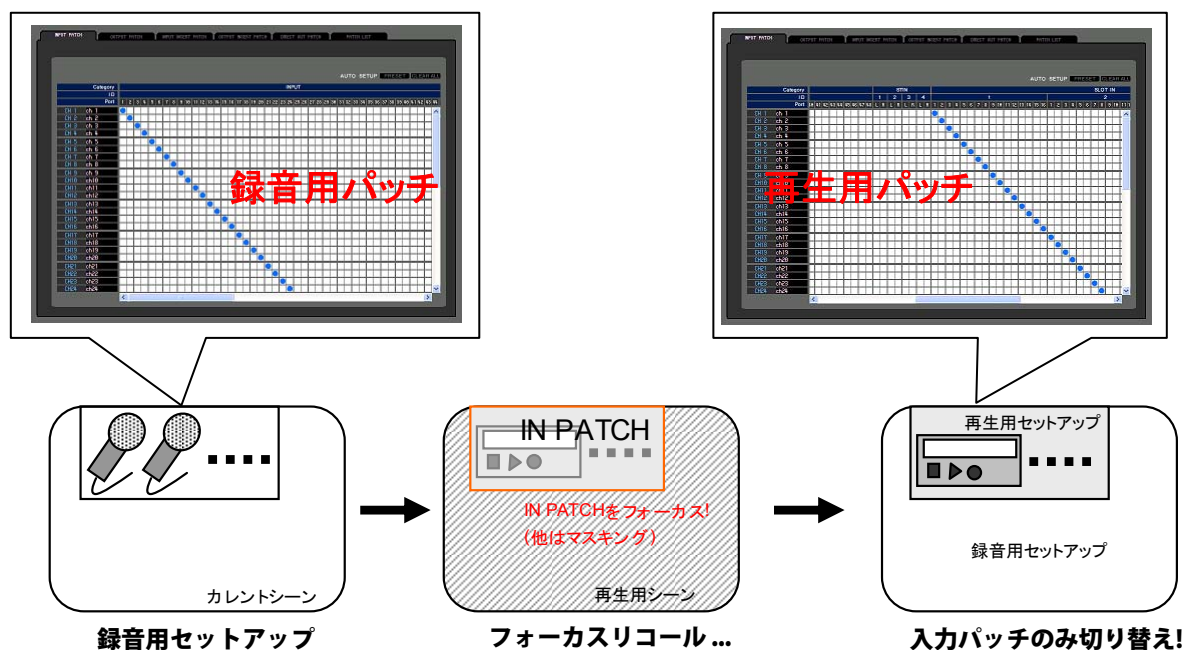
アプリケーション例

エンジニアごとにGEQを調整するには？ (フォーカス)

ライブでバンドごとにエンジニアも交代する場合は、エンジニアごとにGEQを調整したいこともあります。フォーカス機能はシーンごとに設定できるので、1曲目にGEQを調整した場合でも、2曲目以降のシーンはラック以外をフォーカスしてリコールすることで、1曲目のGEQ設定を保持できます。

録音用と再生用に入力パッチを切り替えるには？ (フォーカス)

ライブレコーディングでは、入力にマイクが接続されますが、再生時は同じシーン設定を流用しつつ入力にはレコーダーを接続します。録音用シーンはマイクがパッチされ、再生用シーンはレコーダーがパッチされるようにします。そこで、この2つのシーンは入力パッチをフォーカスしてリコールすることにより、入力パッチのみ切り替えることができます。



リコールセーフの基本操作

RECALL SAFE MODEポップアップウィンドウは、ファンクションアクセスエリアのCH JOBボタン→RECALL SAFEボタンの順に押して表示させます。



リコールセーフを有効にするためには、まずウィンドウ下部に設定を表示するチャンネルを[SEL]キーで選択します。セーフするチャンネルパラメーター(HAやEQなど)を選択し、SAFEボタンでリコールセーフを有効にします。

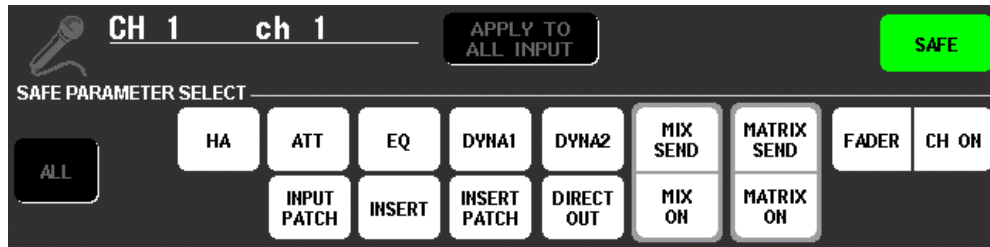
ウィンドウ上部のCH RECALL SAFEフィールドでは、リコールセーフをオンにしたチャンネルをハイライト表示します。ALLでセーフされているチャンネルは緑色、ALL以外の設定でセーフされているチャンネルは青色で表示します。また、SET BY SELボタンをオンにすれば、任意のチャンネルの[SEL]キーを押すだけで、該当するチャンネルのリコールセーフをオンに設定できます。

ウィンドウ右上のGLOBAL RECALL SAFEフィールドでは、チャンネル単位ではなく、インプット系/アウトプット系チャンネルごとにパッチやネーム、ラックをリコールセーフに設定できます。



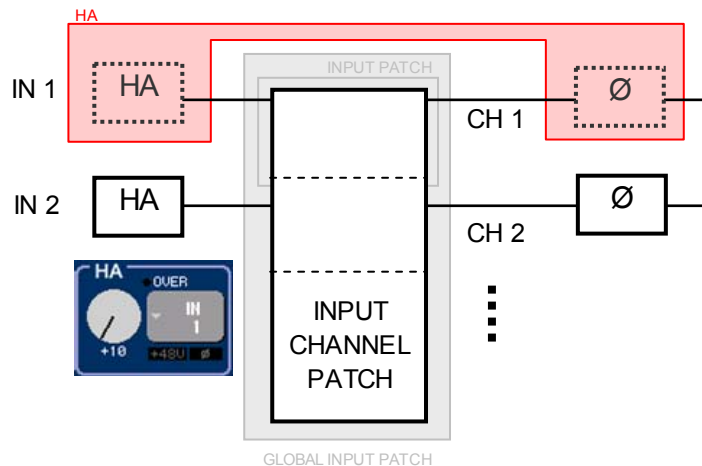
SELECTED CHANNEL VIEW画面でもリコールセーフのオン/オフを設定することができます。初期設定でオンに設定すると、ALLでセーフされます。ALL以外のチャンネルセーフパラメーターが選択されているときは、PARTIALインジケータが点灯します(セーフがオフでも点灯します)。また、ポップアップボタンを押してRECALL SAFE MODEポップアップウィンドウを呼び出すこともできます。

リコールセーフ: チャンネルセーフパラメーター



HA (ヘッドアンプ)

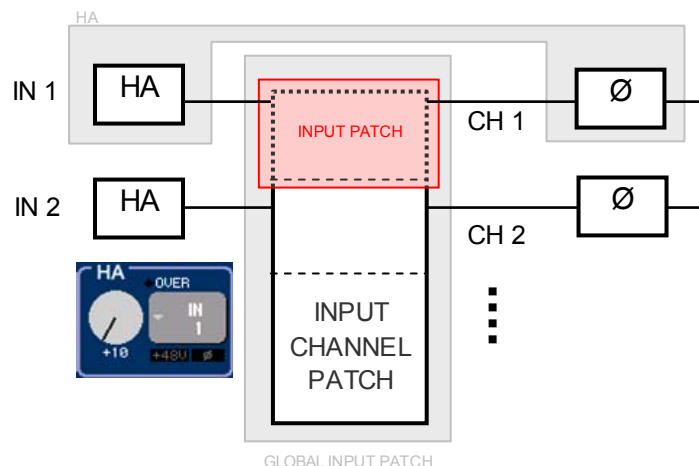
ゲインや+48Vだけでなく、 ϕ (フェーズ)もリコールセーフの対象に含まれます。



INPUT PATCH

インプット系チャンネルにパッチされている入力ポートのパッチがセーフ対象になります。リコールセーフやフォーカスでのパッチ設定は、すべてポートではなくチャンネルから見たパッチとしてグルーピングされます。したがって正確に言うと、INPUT "CHANNEL" PATCHとなります。

入力ポートへの入力信号は複数のチャンネルにパラレル入力できます。したがって、既にパッチされている入力ポートがリコールセーフに設定されていても、他のチャンネルがその入力ポートのパッチをリコールすることができます。この場合、HA設定(ゲイン、+48V)はチャンネル間で共通となり、先にパッチされていたチャンネルのHA設定が優先されて他のチャンネルにコピーされます。 φ (フェーズ)はチャンネルごとに設定できます。

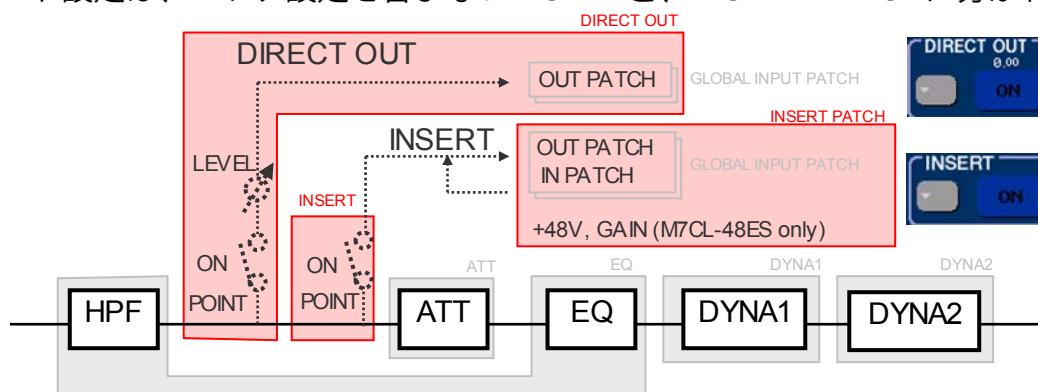


リコールセーフ: チャンネルセーフパラメーター

DIRECT OUT INSERT INSERT PATCH

DIRECT OUTはパッチ設定を含むすべてのダイレクト出力設定です。ツアー中にある会場だけダイレクトアウトからレコーディングすることになった場合は、このパラメーターをセーフしておくと便利です。

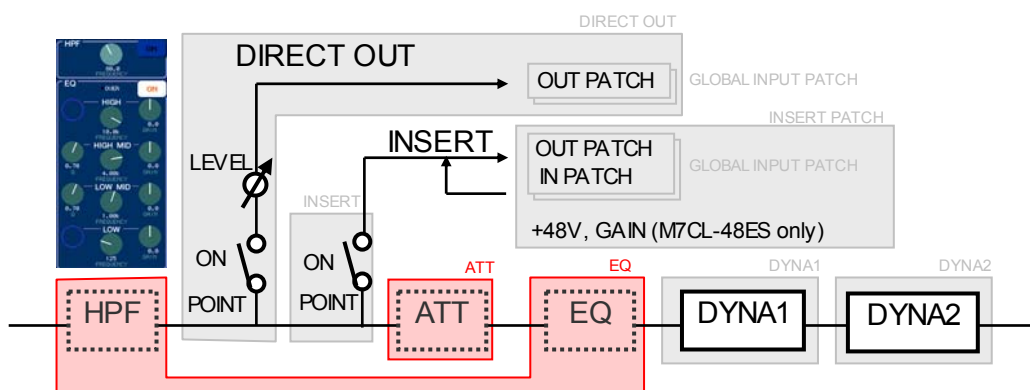
インサート設定は、パッチ設定を含まないINSERTと、INSERT PATCHに分かれています。



EQ ATT

EQはHPF設定も含みます。

ATTは、EQポップアップウィンドウに表示されますが、EQとは別の設定になります。ステージボックスなどの外部HAを他のミキサーと共用していてHAを変更できない場合、HAゲインの代わりにアッテネーターをレベル調整に使用することがあるためです。



リコールセーフ: チャンネルセーフパラメーター

DYNA1

DYNA2

それぞれ、ダイナミクスのすべてのパラメーターがセーフされます。

FADER

CH ON

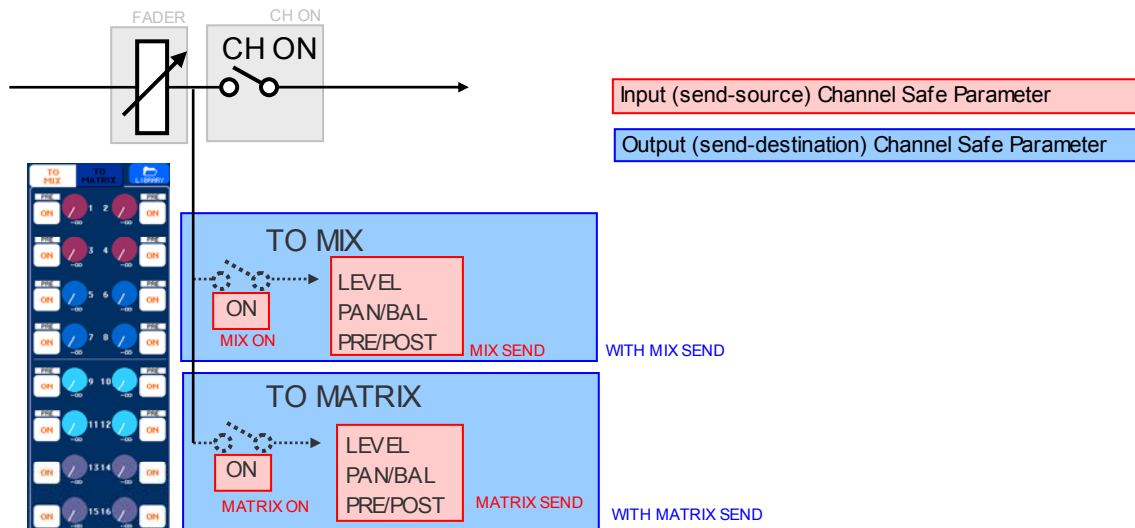
その名のとおり、フェーダー位置とON設定がそれぞれセーフされます。

MIX/MATRIX ON

MIX/MATRIX SEND

WITH MIX/MATRIX SEND

MIX/MATRIXセンドのパラメーターは、送り元のチャンネルまたは送り先のチャンネルで設定されていればセーフされます。送り元のチャンネルのMIX/MATRIX ONとMIX/MATRIX SENDは設定が分かれています。送り先のチャンネルのWITH MIX/MATRIX SENDでは送り元のチャンネルの設定を一括してセーフできます。

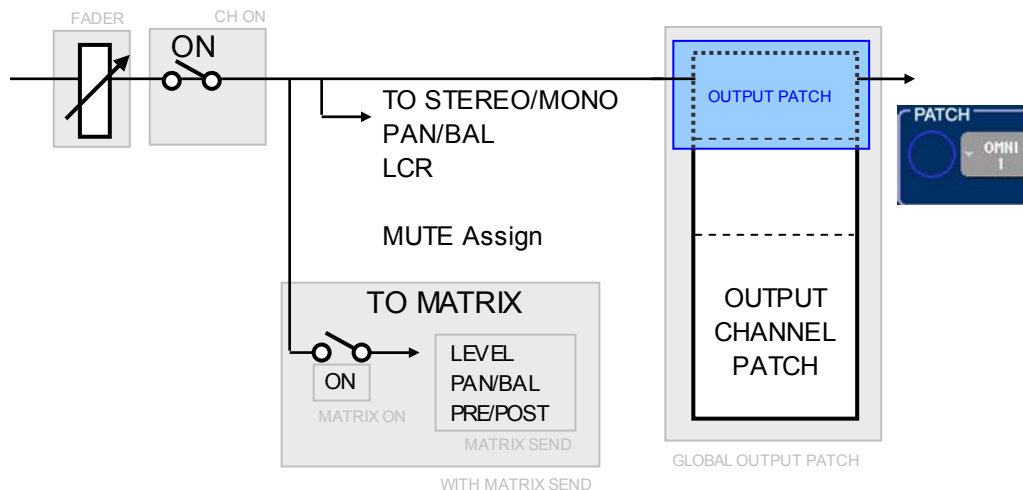


リコールセーフ: チャンネルセーフパラメーター

OUTPUT PATCH

アウトプット系チャンネルにパッチされている出力ポートのパッチがセーフ対象になります。したがって正確に言うと、OUTPUT "CHANNEL" PATCHとなります。

出力ポートは複数のチャンネルからパッチ(信号をミックス)できませんので、既にパッチされている出力ポートがリコールセーフに設定されている場合は、他のチャンネルがその出力ポートのパッチをリコールする(奪う)ことはできません。

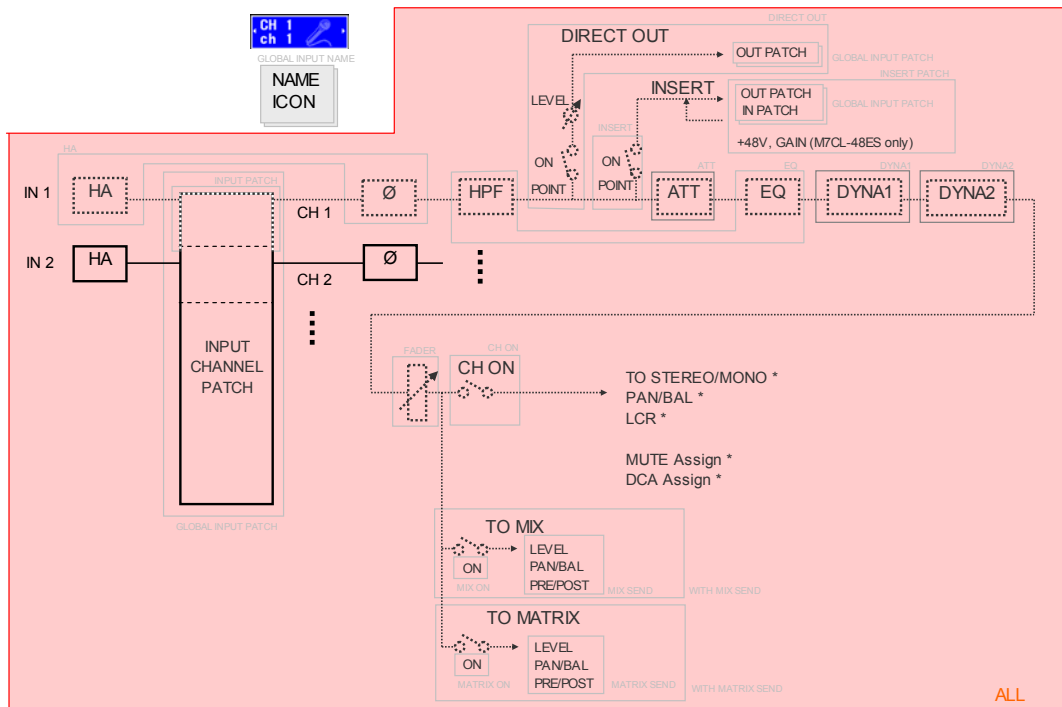


リコールセーフ: チャンネルセーフパラメーター

ALL

ほぼすべてのチャンネルパラメーターをリコールセーフに設定します。ただし、チャンネルの名前とアイコンはALLに含まれないので、GLOBAL INPUT/OUTPUT PATCHでしかセーフできません。また、MIX/MATRIXチャンネルのWITH MIX/MATRIX SENDもALLに含まれません。逆に、TO STEREO/MONO、PAN/BAL、LCR、DCA/MUTE Assignは、ALLでしかセーフできません。

初期設定でチャンネルをリコールセーフに設定すると、ALLでセーフされます。ALL以外のチャンネルセーフパラメーターが選択されているときは、SELECTED CHANNEL VIEW画面でPARTIALインジケータが点灯します。

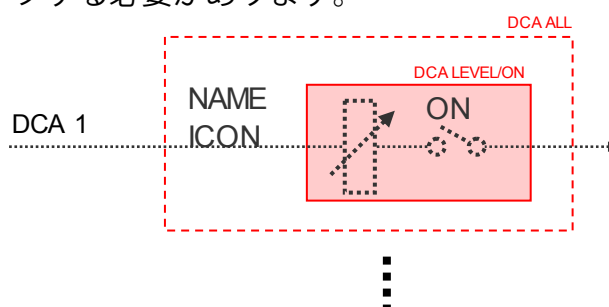


DCA LEVEL/ON

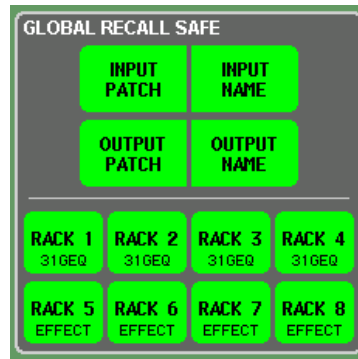
DCA ALL

DCAグループで選択できるリコールセーフパラメーターは、LEVEL/ONまたはALLのみです。DCAグループの場合のみ、ALLに名前とアイコンも含まれます。

DCAグループに属するチャンネル全体をセーフするためには、DCA ALLではなくチャンネルセーフのALLでセーフする必要があります。



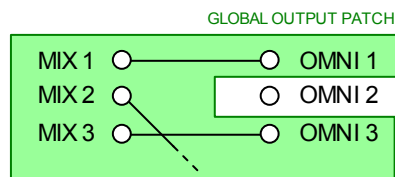
リコールセーフ: グローバルセーフパラメーター



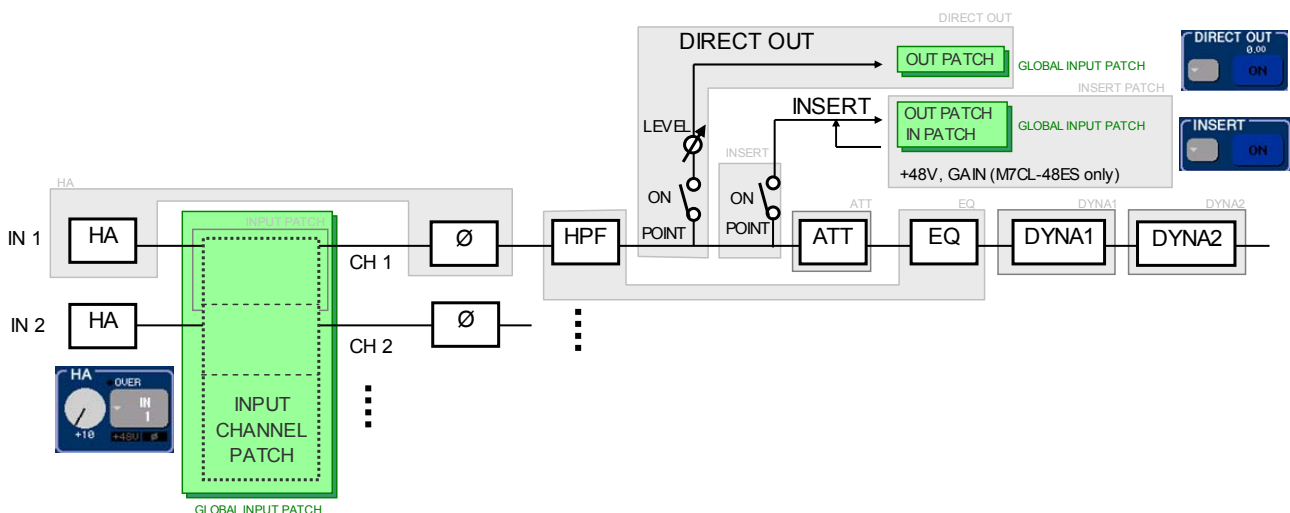
GLOBAL INPUT PATCH GLOBAL OUTPUT PATCH

インプット系チャンネルまたはアウトプット系チャンネルにパッチされているポートのパッチを一括してセーフします。チャンネルセーフパラメーターのINPUT/OUTPUT PATCHとは異なり、インサート、ダイレクトアウト、モニター、カスケードのパッチも含まれます。

また、チャンネルセーフパラメーターと同様に、ポートではなくチャンネルから見たパッチであるにご注意ください。たとえば、アウトプット系チャンネルのインサートパッチは、IN/OUTともGLOBAL OUTPUT PATCHに含まれます。したがって、GLOBAL OUTPUT PATCHをセーフしても、空いている出力ポートやインプット系チャンネルのダイレクトアウトなどのパッチはセーフされません。



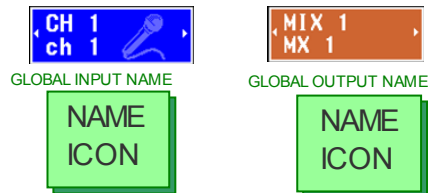
パッチされていないポートはセーフされない!



リコールセーフ: グローバルセーフパラメーター

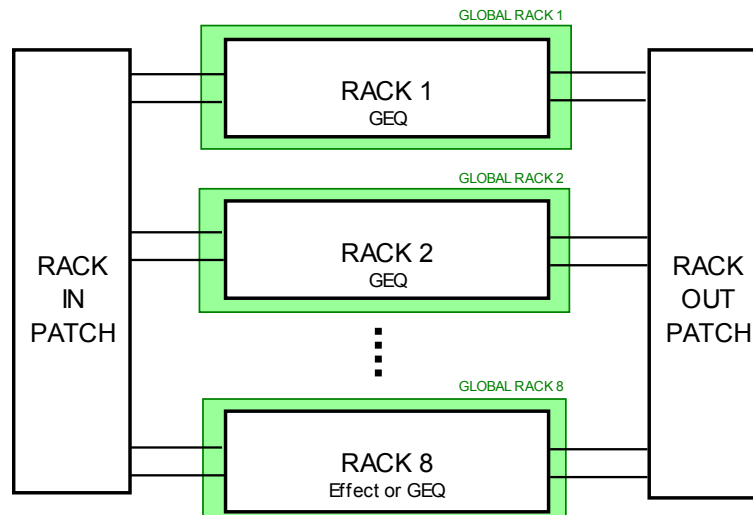
GLOBAL INPUT NAME GLOBAL OUTPUT NAME

インプット系チャンネルまたはアウトプット系チャンネルの名前とアイコンを一括してセーフします。これらのパラメーターは、チャンネルセーフパラメーターのALLには含まれません。また、GLOBAL INPUT NAMEにDCAグループは含まれません。



RACK 1-8

ラックごとにパッチ以外のすべてのパラメーターがリコールセーフに設定されます。VIRTUAL RACK画面のSAFEボタンでも設定できます。

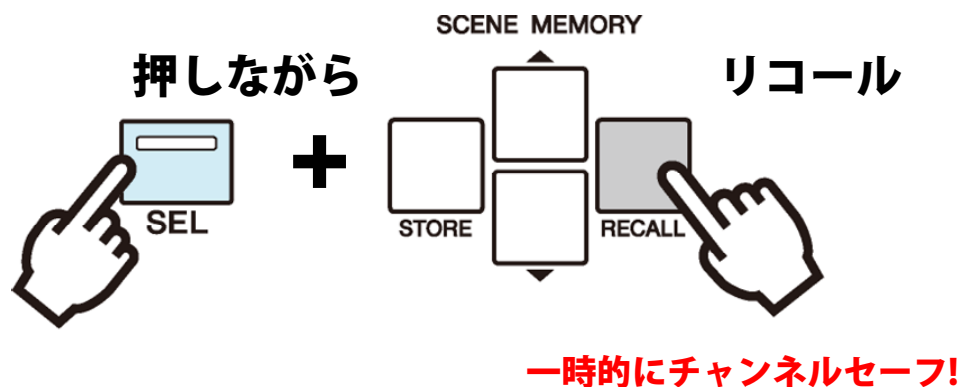


リコールセーフのTips

一時的なチャンネルセーフ

あるチャンネルの[SEL]キーを押しながらシーンをリコールすると、一時的にそのチャンネルをセーフしたままシーンをリコールできます。複数チャンネルのセーフも可能です。完全にシーンをリコールするためには、[SEL]キーを押さずに同じシーンをリコールし直します。

たとえば、演奏者がMCを続けているけど次の曲のシーンをリコールしないといけない場合や、進行に合わせて次のシーンをリコールしないといけないけどある演者だけがまだステージに現れない場合などに便利です。



リコールセーフできないシーン設定

チャンネルリンク、MIX/MATRIX/バスの設定、フォーカス、フェードは、シーンの一部として保存されますが、リコールセーフの対象になりません。

このため、リンクグループに含まれる特定のチャンネル、またはステレオに設定された2本のバスの一方のチャンネルがリコールセーフに設定されていると、そのチャンネルのパラメーター設定が他のチャンネルと異なることがあります。このような場合は、次に該当するパラメーターを操作したときに、自動的にリンクし直されます。

フォーカスの基本操作

フォーカスの設定画面は、SCENE LISTウィンドウでシーンリストの下にあるFOCUSタブを押して表示します。



先に述べたように、リコールセーフはすべてのシーンに共通の設定であるのに対して、フォーカスは特定のシーンをリコールするときのみに有効な設定です。リコールセーフはリコールしない”パラメーターを設定する(マスキングするイメージです)のに対して、フォーカスはリコールする”パラメーターを設定します。また、リコールセーフはチャンネルごとやパラメーターごとに設定できるのに対して、フォーカスはより大きな括りで設定します。もちろん、リコールセーフとフォーカスを併用することもできます。

フォーカスパラメーター

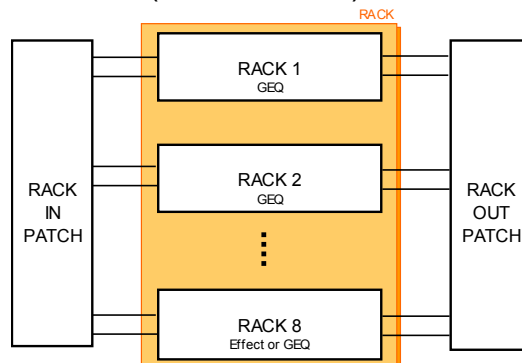


ALL

シーンに含まれるすべてのパラメーターをリコールします(初期設定)。

RACK

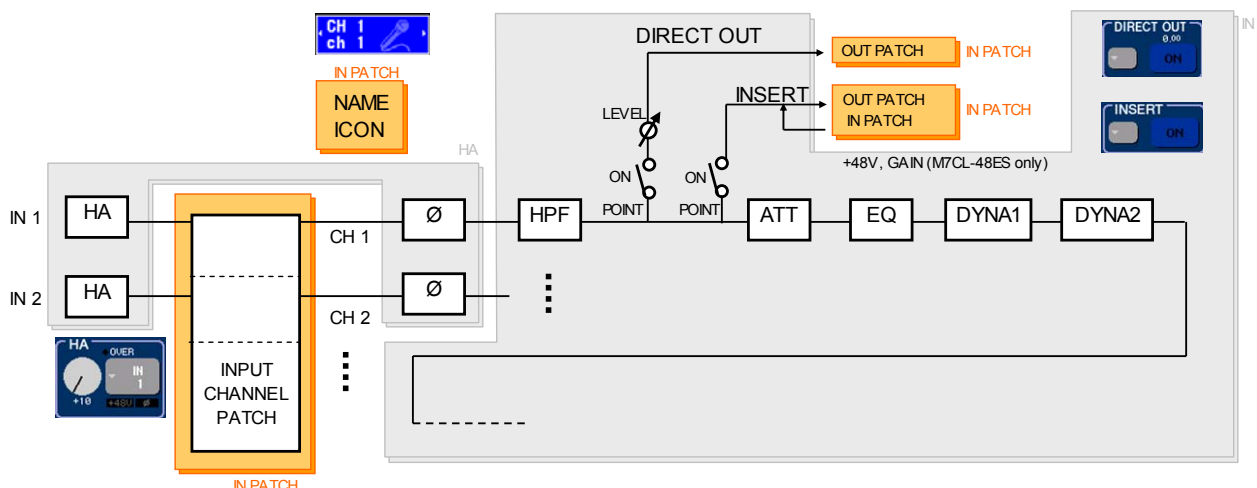
ラックのすべてのパラメーター(パッチは除く)をリコールします。



IN PATCH OUT PATCH

インプット系チャンネルまたはアウトプット系チャンネルにパッチされているポートのパッチを一括してリコールします。たとえば、インプット系チャンネルのインサートパッチは、IN/OUTともIN PATCHに含まれます。

インサート、ダイレクトアウト、モニター、カスケードのパッチも含まれます。また、チャンネルの名前やアイコンも含まれます。

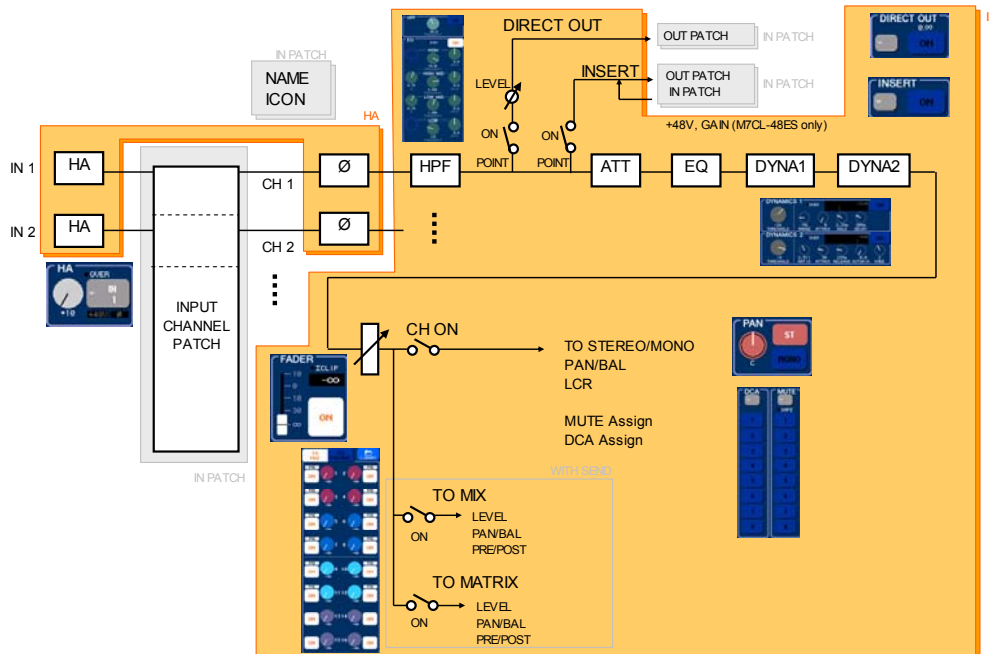


フォーカスパラメーター

HA IN

HAは、ゲインや+48Vだけでなく、 ϕ (フェーズ)も含めて一括してリコールします。

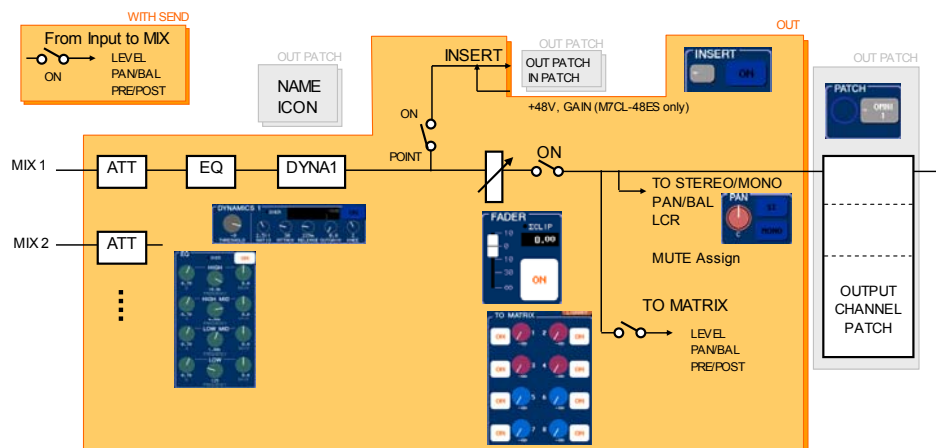
INはインプット系チャンネル(DCAグループも含む)のすべての設定(パッチやHA設定は除く)を一括してリコールします。



OUT WITH SEND

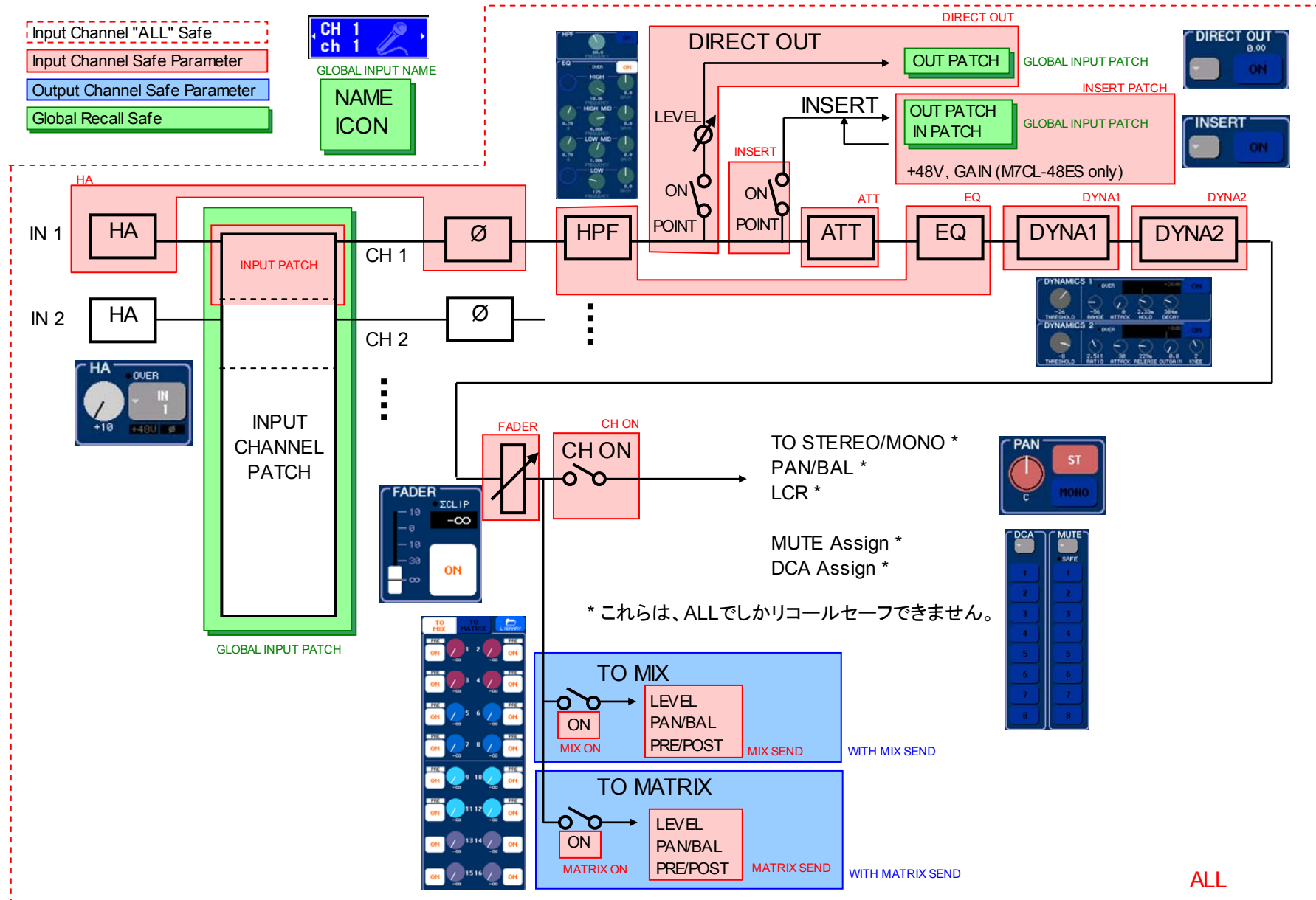
OUTはアウトプット系チャンネルのすべての設定(パッチ設定は除く)を一括してリコールします。

WITH SENDは、OUTボタンがオンのときのみ選択可能で、インプット系チャンネルからMIX/MATRIX/バスへのセンド設定を一括してリコールします。INとOUTの両方をオンに設定したときは、WITH SENDをオンにしなくても、対応するパラメーターはリコール対象になります。



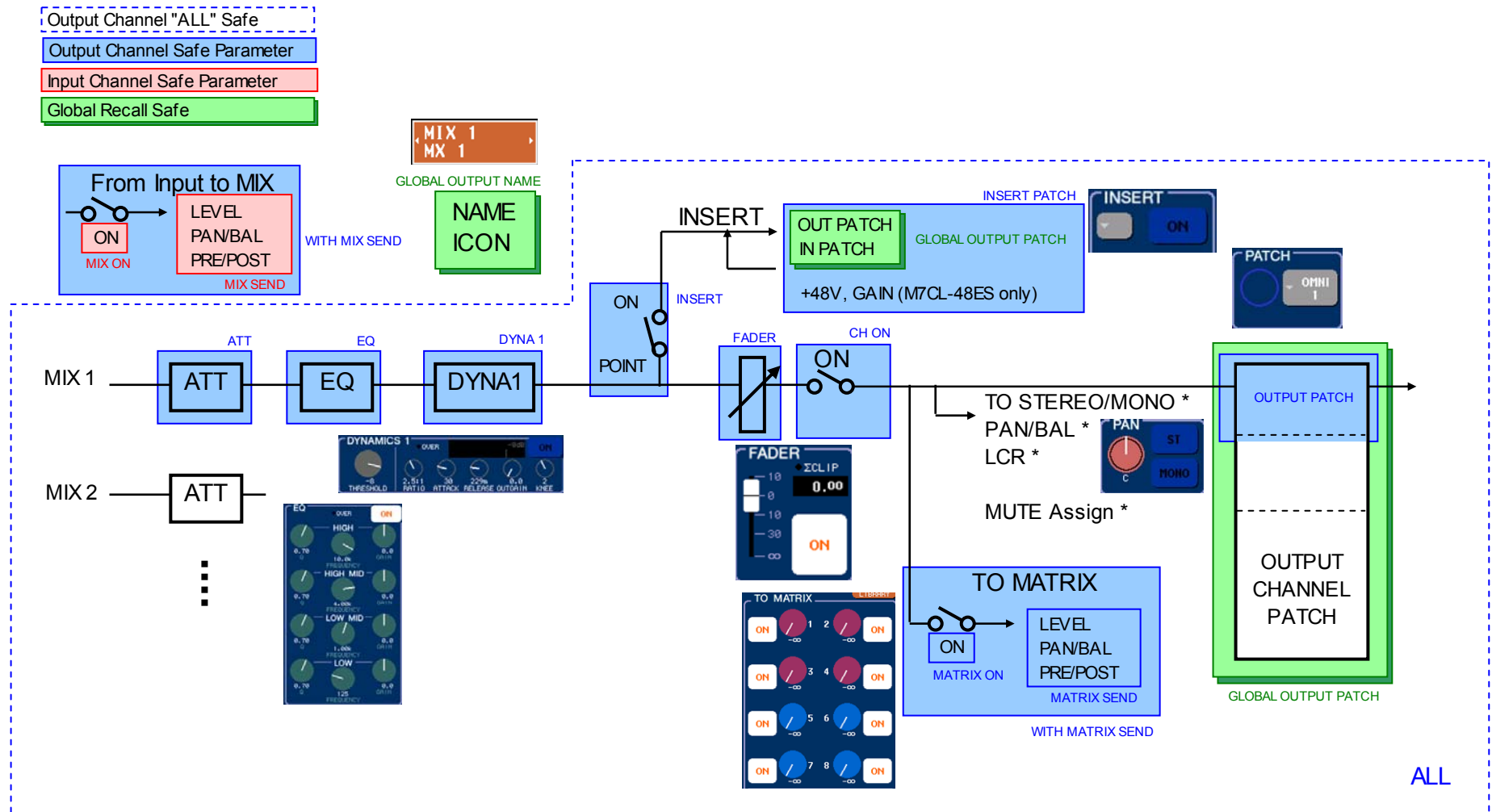
付録: リコールセーフパラメーター (インプット系チャンネル)

以下はINPUTチャンネルの場合です。ST INチャンネルの場合はインサートとダイレクトアウトがありません。

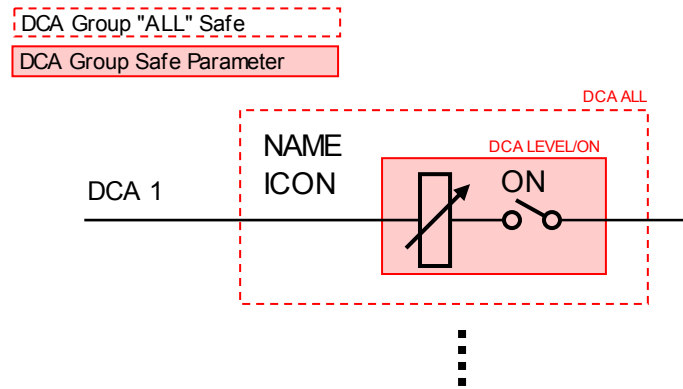


付録: リコールセーフパラメーター (アウトプット系チャンネル)

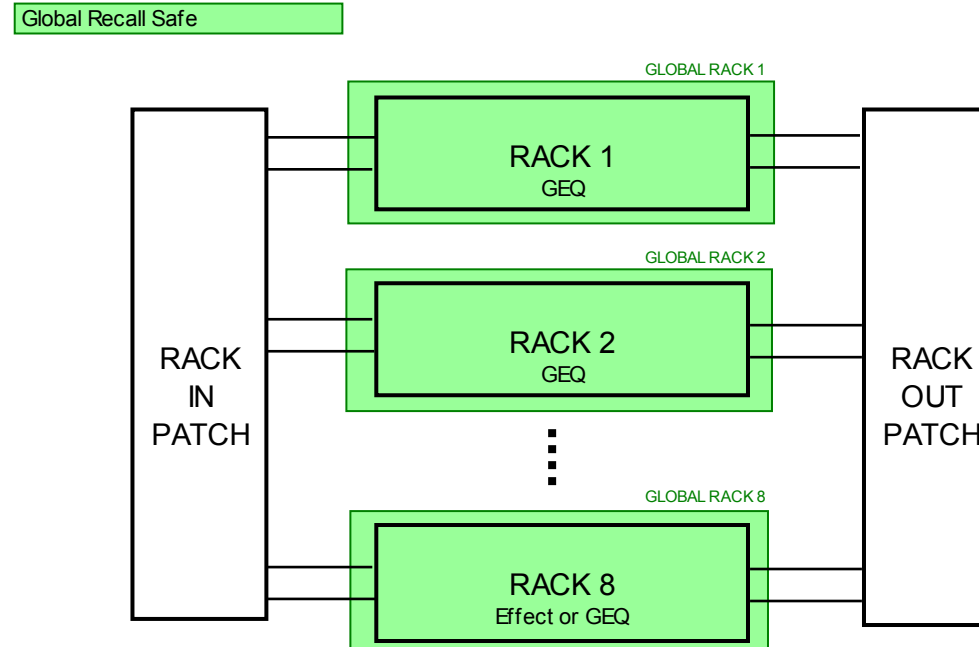
以下はMIXチャンネルの場合です。MATRIXチャンネルやSTEREO/MONOチャンネルの場合はMIX/MATRIXセンドのみ異なります。



付録: リコールセーフパラメーター (DCAグループ)

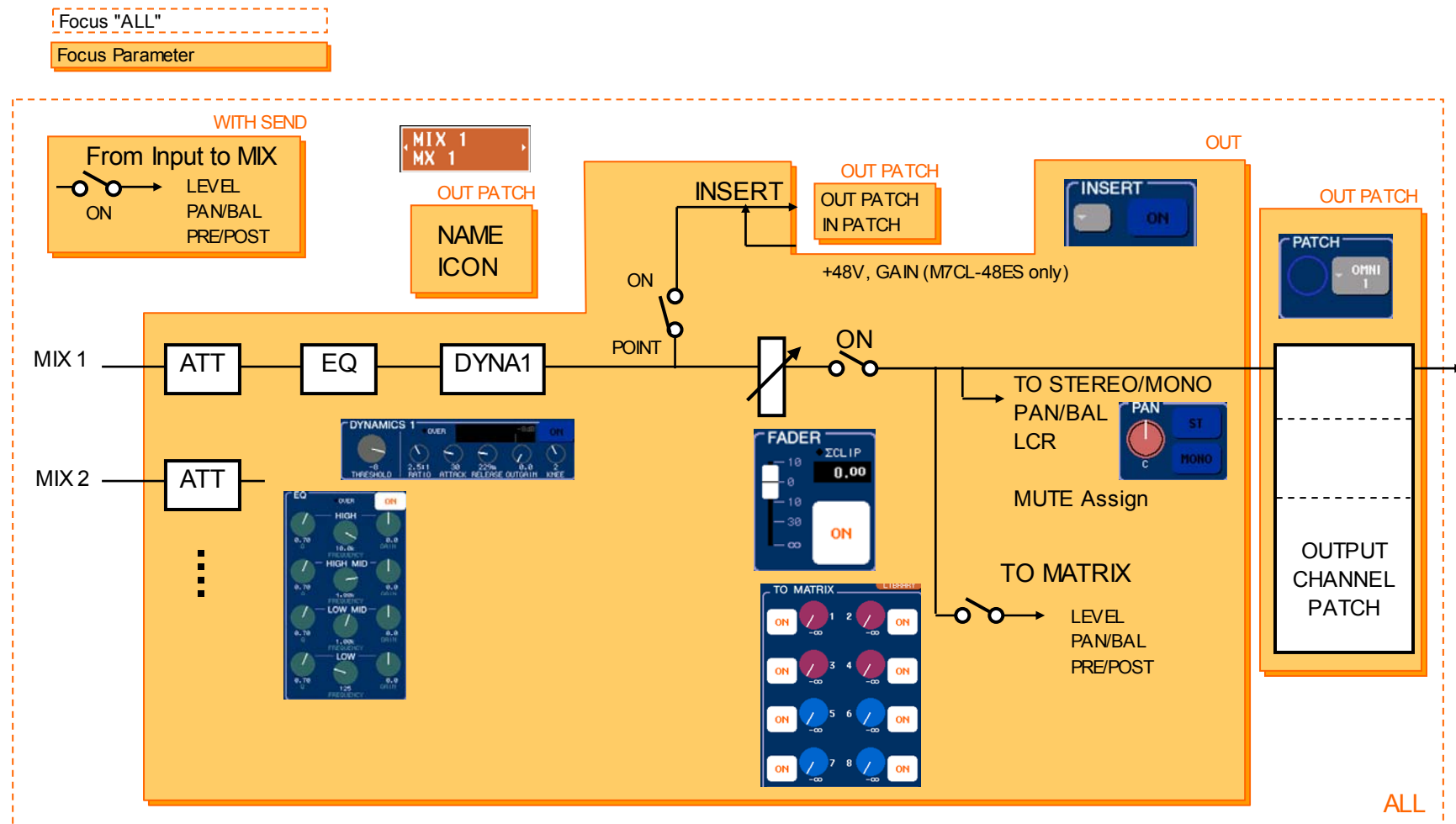


付録: リコールセーフパラメーター (ラック)

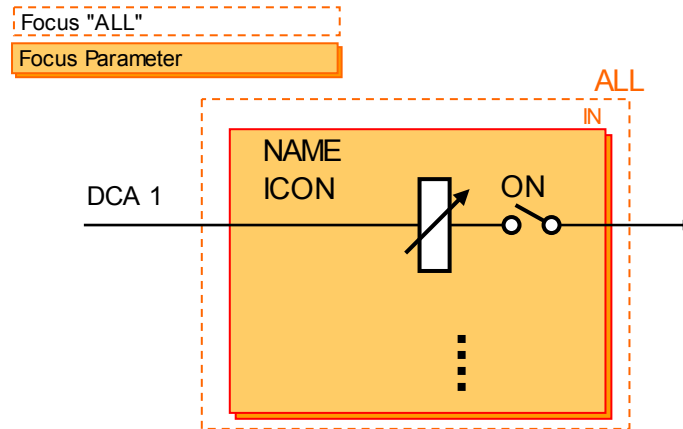


付録: フォーカスパラメーター (アウトプット系チャンネル)

以下はMIXチャンネルの場合です。MATRIXチャンネルやSTEREO/MONOチャンネルの場合はMIX/MATRIXセンドのみ異なります。



付録: フォーカスパラメーター (DCAグループ)



付録: フォーカスパラメーター (ラック)

